

学校法人神野学園 寄附行為

学校法人神野学園寄附行為

第一章 総則

(名称)

第一条 この法人は、学校法人神野学園と称する。

(事務所)

第二条 この法人は、事務所を愛知県名古屋市東区泉一丁目二三番三七号に置く。

第二章 目的及び事業

(目的)

第三条 この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行うことを目的とする。

(設置する学校)

第四条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

- | | | | |
|---|------------|-------|--------------------|
| 一 | 岐阜医療科学大学 | 大学院 | 保健医療学研究科 |
| | | 保健科学部 | 臨床検査学科 |
| | | | 放射線技術学科 |
| | | | 看護学科 |
| | | 看護学部 | 看護学科 |
| | | 薬学部 | 薬学科 |
| 二 | 中日本自動車短期大学 | | 自動車工学科 |
| | | | モータースポーツエンジニアリング学科 |
| 三 | 中日本航空専門学校 | | 航空専門課程 |

第三章 役員及び理事会

(役員)

第五条 この法人に、次の役員を置く。

- 一 理事 七人ないし九人
- 二 監事 二人

2 理事のうち一名を理事長とし、理事総数の過半数の議決により選任する。理事長の職を解任するときも、同様とする。

(理事の選任)

第六条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 第四条第1項各号に定める学校の学長又は校長 三人
- 二 評議員のうちから、評議員会において選任した者 二人ないし三人
- 三 学識経験者のうちから、理事会において選任した者 二人ないし三人

四 第一号に定める理事が、この法人が設置する他の学校の学長又は校長等を兼ねる場合は、理事定数を兼任数だけ減ずることができる。

2 前項第一号及び第二号の理事は、学校の校長又は評議員の職を退いたときは、理事の職を失うものとする。

(監事の選任)

第七条 監事は、この法人の理事、職員（学長（校長）、教員その他の職員を含む。以下同じ。）又は評議員以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事

長が選任する。

(役員任期)

第八条 役員（第六条第一項第一号に掲げる理事を除く。以下この条において同じ。）の任期は、四年とする。ただし、補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

2 役員は、再任されることができる。

3 役員は、任期満了の後でも、後任の役員が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

(役員補充)

第九条 理事又は監事のうち、その定数の五分の一をこえるものが欠けたときは、一月以内に補充しなければならない。

(役員解任及び退任)

第十条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の四分の三以上出席した理事会において、理事総数の四分の三以上の議決及び評議員会の議決により、これを解任することができる。

一 法令の規定又はこの寄附行為に重大な違反があったとき。

二 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。

三 職務上の義務に重大な違反があったとき。

四 役員たるにふさわしくない重大な非行があったとき。

2 役員は次の事由によって退任する。

一 任期の満了。

二 辞任。

三 学校教育法第九条各号に掲げる事由に該当するに至ったとき。

(理事会)

第十一条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。

2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。

3 理事会は、理事長が招集する。

4 理事長は、理事総数の三分の二以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から七日以内に、これを招集しなければならない。

5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。

8 理事長が第四項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。

9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数の理事が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第十二項の規定による除斥のため過半数に達しないときは、この限りではない。

10 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席とみなす。

11 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができ

ない。

(業務の決定の委任)

第十二条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人の業務に関する重要事項以外の決定であつて、あらかじめ理事会において定めたものについては、理事会において指名した理事に委任することができる。

(理事長の職務)

第十三条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

(理事の代表権の制限)

第十四条 理事長以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長職務の代理等)

第十五条 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会において定めた順位に従ひ、理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。

(監事の職務)

第十六条 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

- 一 この法人の財産の状況を監査すること。
- 二 この法人の業務を監査すること。
- 三 この法人の財産の状況又は業務について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後二月以内に理事会及び評議員会に提出すること。
- 四 第一号又は第二号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること。
- 五 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること。
- 六 この法人の財産の状況又は業務について、理事会に出席して意見を述べること。

(議事録)

第十七条 議長は、理事会の開催の場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

- 2 議事録には、出席した理事全員が署名押印し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

第四章 評議員会及び評議員

(評議員会)

第十八条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、十五人ないし十九人の評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、評議員総数の三分の一以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から二十日以内に、これを招集しなければならない。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
- 6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

- 7 評議員会に議長を置き、議長は、評議員のうちから評議員会において選任する。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決をすることができない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 議長は、評議員として議決に加わることができない。

(議事録)

第十九条 第十七条の規定は、評議員会の議事録について準用する。この場合において、同条第二項中「出席した理事全員」とあるのは、「議長及び出席した評議員のうちから互選された評議員二人以上」と読み替えるものとする。

(諮問事項)

第二十条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

- 一 予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
- 二 事業計画
- 三 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
- 四 寄附行為の変更
- 五 合併
- 六 目的たる事業の成功の不能による解散
- 七 寄附金品の募集に関する事項
- 八 その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(評議員会の意見具申等)

第二十一条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の仕事執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第二十二条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 理事会において選任された理事 二人ないし三人
 - 二 この法人の職員で理事会において推薦された者のうちから、評議員会において選任した者 三人ないし四人
 - 三 この法人の設置する学校を卒業した者で年令二十五年以上のものうちから、理事会において選任した者 一人ないし二人
 - 四 学識経験者のうちから、理事会において選任した者 九人ないし十人
- 2 前項第一号に規定する評議員は、この法人の理事の職を失ったとき、同第二号に規定する評議員は、この法人の職員の地位を退いたときは評議員の職を失うものとする。

(任期)

第二十三条 評議員の任期は、四年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 評議員は、再任されることができる。

(評議員の解任及び退任)

第二十四条 評議員が次の各号の一に該当するに至ったときは、評議員総数の三分の二以上の議決により、これを解任することができる。

- 一 心身の故障のため職務の執行に耐えないとき。
- 二 評議員たるにふさわしくない重大な非行があったとき。

2 評議員は次の事由によって退任する。

- 一 任期の満了。
- 二 辞任。

第五章 資産及び会計

(資産)

第二十五条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

第二十六条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産とする。

- 2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入された財産とする。
- 3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。
- 4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産、運用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第二十七条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第二十八条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実なる銀行に信託し、若しくは定期性預金とし、又は定額郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第二十九条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会計)

第三十条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

(予算及び事業計画)

第三十一条 この法人の予算及び事業計画は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会において出席した理事の三分の二以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第三十二条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において出席した理事の三分の二以上の議決がなければならない。借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）についても、同様とする。

(決算及び実績の報告)

第三十三条 この法人の決算は、毎会計年度終了後二月以内に作成し、監事の意見を求めるものとする。

る。

2 理事長は、毎会計年度終了後二月以内に、決算及び事業の実績を評議員会に報告し、その意見を求めなければならない。

(財産目録等の備付け及び閲覧)

第三十四条 この法人は、毎会計年度終了後二月以内に財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書を作成しなければならない。

2 この法人は、前項の書類及び第十六条第三号の監査報告書を各事務所に備えて置き、この法人の設置する私立学校に在学する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供しなければならない。

(資産総額の変更登記)

第三十五条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後三月以内に登記しなければならない。

(会計年度)

第三十六条 この法人の会計年度は、四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終るものとする。

第六章 解散及び合併

(解散)

第三十七条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

- 一 理事会における理事総数の三分の二以上の議決及び評議員会の議決
- 二 この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における出席した理事の三分の二以上の議決
- 三 合併
- 四 破産
- 五 文部科学大臣の解散命令

2 前項第一号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認可を、同項第二号に掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属者)

第三十八条 この法人が解散した場合（合併又は破産によって解散した場合を除く。）における残余財産は、解散のときにおける理事会において出席した理事の三分の二以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益法人に帰属する。

(合併)

第三十九条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の三分の二以上の議決を得て文部科学大臣の認可を受けなければならない。

第七章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

第四十条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において出席した理事の三分の二以上の議決を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

2 私立学校法施行規則に定める届出事項については、前項の規定にかかわらず、理事会において出席した理事の三分の二以上の議決を得て、文部科学大臣に届け出なければならない。

第八章 補則

(書類及び帳簿の備付)

第四十一条 この法人は、第三十四条第2項の書類のほか、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に各事務所に備えて置かなければならない。

- 一 寄附行為
- 二 役員及び評議員の名簿及び履歴書
- 三 収入及び支出に関する帳簿及び証ひょう書類
- 四 その他必要な書類及び帳簿

(公告の方法)

第四十二条 この法人の公告は、神野学園の掲示場に掲示して行う。

(施行細則)

第四十三条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要な事項は、理事会が定める。

附 則

- 一 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

理事(理事長)	神野 浅 義	理事	岸 延 一
理事	近藤 重 数	理事	林 貞 次
理事	上田 文 雄	理事	内田 雄一郎
理事	加藤 鍵 一		
監事	石黒 健 二	監事	佐藤 武 雄

- 二 この寄附行為は、昭和四十二年二月七日から施行する。
- 三 この寄附行為は、昭和四十六年六月二十五日から施行する。
- 四 この寄附行為は、昭和四十八年九月二十七日から施行する。
- 五 この寄附行為は、昭和四十九年六月二十七日から施行する。
- 六 この寄附行為は、昭和五十一年四月九日から施行する。
- 七 この寄附行為は、昭和五十七年四月一日から施行する。
- 八 この寄附行為は、昭和五十八年一月十七日から施行する。
- 九 この寄附行為は、昭和六十年三月二十九日から施行する。
- 十 この寄附行為は、昭和六十二年四月一日から施行する。
- 十一 この寄附行為は、昭和六十三年三月九日から施行する。
- 十二 この寄附行為は、昭和六十三年五月十一日から施行する。
- 十三 この寄附行為は、文部大臣の認可の日(平成二年十二月二十一日)から施行する。
- 十四 平成十一年三月三十一日文部大臣認可のこの寄附行為は、平成十一年四月一日から施行する。
- 十五 平成十六年三月三十一日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成十六年四月一日から施行する。
- 十六 この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成十七年六月一日)から施行する。
- 十七 この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成十七年十月五日)から施行する。
- 十八 この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日(平成十七年十二月五日)から施行する。
- 十九 この寄附行為は、平成十九年四月一日から施行する。

(中日本自動車短期大学自動車工業科の存続に関する経過措置)

中日本自動車短期大学自動車工業科は、改正後の寄附行為第四条の規定にかかわらず平成十九年三月三十一日に当該学科に在学する者が当該学科に在学するまでの間、存続するものと

する。

二十 この寄附行為は、平成二十年四月一日から施行する。

二十一 この寄附行為は、平成二十一年四月一日から施行する。

二十二 平成二十一年三月十八日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十一年四月一日から施行する。

二十三 この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十一年八月二十六日）から施行する。

二十四 この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十四年三月二十七日）から施行する。

二十五 この寄附行為は、平成二十四年四月一日から施行する。

二十六 平成二十六年三月十四日文部科学大臣認可のこの寄附行為は、平成二十六年四月一日から施行する。

二十七 この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十七年八月三十一日）から施行する。

二十八 この寄附行為は、平成二十九年五月三十日から施行する。

二十九 この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成二十九年九月十五日）から施行する。

三十 この寄附行為は、平成三十年四月一日から施行する。

三十一 この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（平成三十一年三月十四日）から施行する。

三十二 この寄附行為は、文部科学大臣の認可の日（令和元年九月六日）から施行する。